

【連載】

老健仕事人 作業療法士

私が心がけていること



野呂賢作 [のろ・けんさく]
老人保健施設みず里 (愛知県)

施設紹介

老健施設「みず里」は愛知県名古屋市中川区にあり、名古屋市内では珍しく、田園風景の広がる見晴らしが良い場所にあります。敷地の横には大きな公園があり、散歩や気分転換に最適な場所となっています。桜や稲穂など四季折々の風景が楽しめます。

当施設は1989年に開設し、ご利用者の笑顔と安らぎを大切に「その人らしさ」を最後まで支援し、地域に密着した信頼される施設をめざす、といった理念のもと超強化型老健施設として入所、通所・訪問リハビリ等のサービスを提供しています。リハビリ専門職は理学療法士7名、作業療法士5名、言語聴覚士2名、訓練助手1名で、日々の業務にあたっています。

はじめに

私は元々、精神科のもの忘れ外来で5年ほど作業療法士として働いており、当施設にはいまから12年前に転職してきました。入職当時から主に通所リハビリを担当していますが、入所を受けもつこともあります。いまから2年前に訪問リハビリも立ち上げたので、現在は三刀流で目まぐるしく日々の業務に努めています。

現在この原稿を書いている時期が2024年3月なのですが、医療介護報酬の同時改定が近づいており、新しい情報もいろいろ出てきている状況です。このような転換期は業務量が多くなり、不安やストレスが溜まりやすくなるため、体力的にもしんどくなる方が多いのではないのでしょうか。しかし、私は新しいことを始めたり、挑戦したりすることを楽しみながら行うようにしています。また、新しいことに早く取り組むと、ご利用者にとってもプラスになる点が多くあると感じているので、この思いを今回つたない文章ではあり

ますが、伝えることができたらと思っています。

業務について

前述したとおり、現在は入所・通所・訪問リハビリを担当しており、メインとしては入職当時から通所と、最近始まった訪問リハビリの業務を行っています。日々のリハビリ業務やリハビリ会議、担当者会議への出席、自宅訪問やご家族との交流・指導など、生活場面に関わらせていただくことが多くあります。また、主任業務や制度改正時の対応などを行っています。

新しいことに早く取り組む重要性

自分にとって初めての転換点は、精神科から老健施設への転職でした。精神科では身体機能のリハビリを行うことがほとんどなかったので不安はありました。やはり入職当初はとても大変で、迷惑をかけたと思います。しかし、長い目で辛抱強く面倒を見てくださっている先輩方のおかげで、現在も続けられています。この経験から学んだのは、わからないことをわからないままにしたり、わかったつもりで行ったりしないということでした。あたり前ですが、うやむやなまま行うことは、ご利用者にとって大変失礼なことになります。わからないことは調べるだけではなく、聞くことがとても大事だと思います。自分の考えよりも良い解決策があるのではないかと常に思い、職員同士で聞いたり話し合うことが、ご利用者にとってもより良いリハビリにつながったり、問題解決の早道になるのではないかと思うようになりました。

次の転換点は通所リハビリで新しく始まったリハビリ会議やVISITです。当施設ではいち早くVISITに取り組み始めたのですが、少しずつ業務にも慣れた頃に始まったこの新しいシステムに初めは四苦八苦しま

した。しかし、先輩方が舵をとり、そこに私も乗っかかりながらこのシステムや介護報酬改定のことを理解して、今後どのように進めていくのかを考えて話し合う過程はとても楽しかったです。

実際にリハビリ会議を始めると、ご家族との距離が縮まり、より生活環境に寄り添うことができるようになったと思います。また、医師とのコミュニケーションや関わりが増えたことで、ご利用者やご家族にとっては医師に直接相談できるメリットができ、リハビリ専門職は医師の視点からのアドバイスや助言がもらいやすくなりました。

その後新しく始まった加算で生活行為向上リハビリテーション実施加算というものがありますが、これもいち早く実施できるように勉強会に参加し、加算がとれる準備を行いました。同加算は実際の生活場所や生活範囲でのリハビリが特徴なので、屋外に出ることが多く時間がかかります。しかし、ご利用者のニーズに合ったリハビリが生活場面で行えるので、とても有意義なリハビリだと感じました。

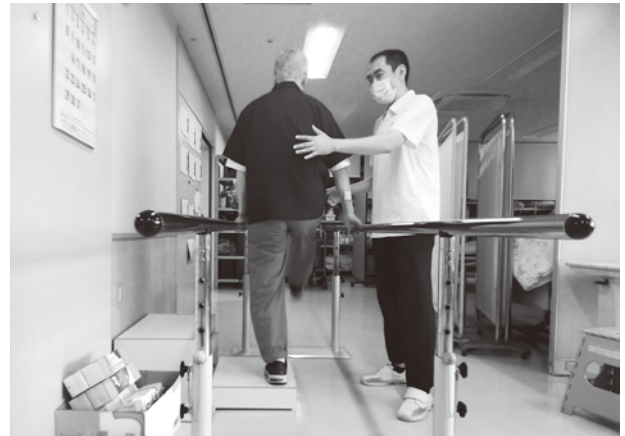
実際、この加算を実施したご利用者は、自宅からコンビニまでの歩行訓練を行うことで買い物に行けるようになり、エスカレーターや電車の乗降、駅のトイレの使用等の訓練を行うことにより、最終的には電車に乗ってご家族と旅行に行くことができました。

初めはこの加算は時間がかかるため難しいと思っていましたが、実際に取り組んだ結果、成果が表れ、ご利用者・ご家族ともに喜んでもらえました。

その後は現在のLIFEが始まりましたが、VISITに早めに取り組んでいたため、スムーズに移行作業が進み、迅速に混乱も少なく新しい改定の波に乗ることができたと思います。

現在は新たに訪問リハビリが立ち上がり、業務の流れの確認や書類整備だけでなく、訪問してリハビリも行っています。右も左もわからない状態から始めたので最初は不安でしたが、さまざまな方に相談をし、アドバイスをもらいながら業務の流れをつくることから始めました。法人内外の居宅介護支援事業所からご利用者を紹介してもらいながら、徐々に実施人数が増加している状況です。

私は訪問リハビリの実施自体が初めてでしたが、通所での在宅支援やご家族との関わり、前述の生活行為向上リハビリテーション実施加算をとっていたこ



元ラグビー選手のご利用者。意欲的に取り組めるよう、ラグビーのキックを模した動作を取り入れた。

とにより、在宅や生活環境でのリハビリもスムーズに取り組むことができたように思います。

まとめ

この「まとめ」を書いている時期が5月になり、近々通所・訪問リハビリの改定が実施されます。また、掲載誌が発行されるのが8月下旬なので、その頃には、改定に対応したLIFEが稼働していると思います。

いずれはこの改定も古くなる時が来て、さらには2040年を見据えた介護保険制度改革など今後も改定が行われるので、アップデートをし続けなければなりません。新しく始まることに関しては早めに情報収集をして早めに実施することが大切だと思います。さまざまなことを経験しておくことが、必ず自分や職場全体の糧となります。また、違うことを始める際にもいままでやってきたことが応用できて役に立つことが必ずあります。新しく何かを始めないといけないうときには苦手意識をもたずに楽しく、とにかく一度始めてみるのが大事なのではないかなと私は感じています。

また、新しいことや初めてのことを行うには時間や労力が必要になります。1人では壁にあたりに、うまくいかないことも多いと思いますが、私は同じ部署の仲間にとっても助けられました。仕事のヘルプや制度の解釈などに一緒に取り組んでくれたおかげで、ここまでやってこられたのだと思っています。1人で抱え込まず、みんなでアイデアを出し合いながら進めたほうが速く進むと思っています。

つたない文章ではありましたが、最後まで読んでくださりありがとうございました。